

1/16 「戦争はイヤだ」北区ネットリレートーク



北区の市民団体や個人、議員有志が緩やかにつながり、反戦のアクションを行う「戦争はイヤだ北区ネット」が、1/15(土)区内の各駅頭で午後2時から一斉に宣伝しました。

安全保障関連3文書や大軍拡・大增税には「閣議決定だけで勝手に決めるな」と声が上がっています。

日米共同で敵基地攻撃を行う首脳レベルでの合意にも批判が高まっています。

私本田正則は田端駅に参加し、「北区では4月から、区民運動で学校給食が完全無償になります。国民運動で、大軍拡・大增税ストップしましょう。」と訴えました。



1/17 阪神大震災から28年 語り継ぎ大震災に備えよう

東京新聞は1/17付け社説で、「阪神大震災から28年 地図を手に痕跡を巡る」として中心は震災を直接知らない世代に「災害の経験をどう伝えていくのか。重い課題です。」としました。

東京都は、五つの大災害、風水害、大地震、火山噴火、電力・通信などの途絶、感染症に備えるプロジェクトを組んでいます。そこで大事なのは「何よりも一人ひとりの命を守る」こと。風水害には早めの避難、大地震には「頭と体」を守るための住まいの整備や避難の準備と訓練等が求められます。火災や地震では、風向きや家屋倒壊状態などによって、逃げる方向やルートも行き先も変わります。

生活再建に関して、阪神大震災では、宝塚市や伊丹市は災害復興住宅に継続入居、一方で西宮市・神戸市が借上復興住宅終了など、復旧・復興のあり方での様々な格差の是正も問われています。そんな中での復興増税の使い方の転換は許せません。

被災地の運動が世論を動かし、被災者生活再建支援法につながりました。みなさんと一緒に災害対策強化に取り組みます。(本田正則)



●ご相談はお気軽に
090-9240-8066

北区議
会議員 日本共産党 本田正則 区政レポート

No. 320号2023.01.18

日本共産党北区議員団
〒114-8508 北区王子本町 1-15-22

阪神・淡路大震災 28年 被災者支援 地域格差を批判

神戸でメモリアル集会 山下氏あいさつ

2023年1月18日【1面】

「災害被災者の暮らし再建へ生活保障制度の抜本的拡充を」テーマに、阪神・淡路大震災から28年たった17日、神戸市長田区でメモリアル集会が行われました。主催は阪神・淡路大震災救援・復興兵庫復興県民会議。126人が参加しました。（関連9面）

熊本学園大学の高林秀明教授が、「熊本地震6年・熊本豪雨2年の被災者の生活再建と支援制度の課題」について記念講演しました。県が進める「創造的復興」は、住民不在のまま大規模開発が行われる一方、借上型仮設住宅に入居した住民が被災者支援やコミュニティから孤立していると指摘。被災者生活再建支援法の支援金も家屋再建には不足しているうえに、水害の被害判定にも課題があると話しました。

借上復興住宅弁護団の吉田維一弁護士は、借上復興住宅追い出し裁判で見た転居者の生活について報告。宝塚市や伊丹市は災害復興住宅に継続して入居できたのに対し、西宮市・神戸市が借上復興住宅の入居者を追い出してきたと話し、被災時に住んでいた自治体によって被災者支援に格差があると批判しました。また、高齢者は転居で負荷がかかると述べ、健康被害の実例を紹介しました。

日本共産党からは山下芳生副委員長・参院議員が参加。震災の年に初当選し、国会で被災者の補償を求める中で「被災地で取り組まれた運動が世論を動かし、被災者生活再建支援法ができた」と述べ、「被災地の声と実態が私たち議員にエネルギーを注入してくれた」と連帯のあいさつをしました。

忘れられない光景

阪神・淡路大震災 交流継続望む声

2023年1月18日【社会】

6434人が犠牲になった阪神・淡路大震災から28年を迎えた17日、早朝から被災地の各地では追悼行事が行われ、犠牲者に哀悼の意を表しました。

神戸市長田区のポケットパーク（日吉町5丁目）では地震が発生した午前5時46分、僧侶によるほら貝が鳴り響き読経の中、地域の住民や訪れた人たちが犠牲者に祈りを捧げました。

鷹取市場の店舗が全焼した森川朗子（さえこ）さん（81）は「若松町で育ち商売をしてきました。たくさんの方が亡くなって、避難する場所を探す人が道にあふれていました。自分の店が燃えていく、あの時の怖さとこの先どうして生きていけばいいのかという不安は忘れられません」と話していました。

日吉5丁目自治会長の菅利秋（78）さんは「ここで慰霊祭や餅つき、地蔵盆に地域の人と子どもが寄って来て、つながりができ広がりつつあります。亡くなった人もたくさんいるが、こういう場所ができたことはありがたいと思うようにしています。慰霊祭はこれからも続けたい」と話していました。

<阪神大震災28年>被災の記憶 絵でつなぐ 読売 「人が起こす戦争は、人の力で食い止められるだろう。でも、自然災害はどうしようもない。だからこそ、油断してはいけない。常に災害に備える気持ちを持ってほしいと思います」

阪神・淡路大震災から28年、山口県庁でパネル展 朝日

阪神・淡路大震災28年、DMAT医師の思い 朝日小学生新聞

被害の全容 2006年5月19日消防庁確定 全データ 朝日 DIGITAL データ | 1.17 再現－阪神・淡路大震災：朝日新聞デ …

阪神大震災28年 神戸から灯りつなぐ「1.17のつどい」を東京・日比谷公園で開催

2023年1月17日 21時34分

「1.17 ムスブ」の文字に並べられたキャンドルを灯して、黙とうする人たち＝東京都千代田区の日比谷公園で

「1.17 ムスブ」の文字に並べられたキャンドルを灯して、黙とうする人たち＝東京都千代田区の日比谷公園で

6434人が犠牲となった1995年の阪神大震災は17日、発生から28年となった。東京・日比谷公園では夕方、神戸会場から灯りをつなぐ「1.17のつどい」が開かれた。

3回目の開催で約100人が参加。神戸会場に参加できない人らとも思いを共有したいと、実行委員長の藤本真一さん（38）＝神戸市北区＝らが、神戸でもされた灯りを東京に運んだ。

会場では100個のキャンドルを「1.17 ムスブ」の形に並べ午後5時46分に黙とう。神戸とネット中継で結び、鎮魂の思いを共にした。

都内の専門学生長谷川真白さん（19）は神戸市垂水区出身。「震災や地震に対して向き合わないといけない日」だといい、家族から被災経験を聞き、避難について話し合ってきた。「東京で神戸を思う場所があるのは、ありがたくうれしい。来年も参加したい」と話した。

渋谷区の自営業男性（32）は4歳の時、兵庫県西宮市の自宅で被災した。両親は無事だったが「家の中がぐちゃぐちゃだった」と振り返る。初めての参加で「当時被災した人の思いや無念、残された人の命に思いをはせられ、いい機会だった」とかみしめるように話した。（山下葉月）

【関連記事】<社説>阪神大震災から28年 地図を手に痕跡を巡る

阪神・淡路大震災から今年で二十八年になります。当時を詳しく知る人たちも高齢になり、被災経験や教訓の伝承も徐々に難しくなっているといえます。

社会を動かす中心は震災を直接知らない世代に移っていきます。そのとき、災害の経験をどう伝えていくのか。重い課題です。

